

令和6年度10月例会レジュメ

日 時：2025年10月24日(金) 18:00～20:00

場 所：機械振興会館 211 会議室+web (MS-Teams を利用) 併用ハイブリッド開催

講 師：原子力規制庁 放射線防護企画課 技術参与 多摩大学 総合研究所 教授 山本 哲也 氏

演 題：原子力防災について～福島第一原子力発電所の事故を踏まえて～

司会進行：住川 隆 幹事

報告者：松嶋 貴之 S幹事

参加者：67名 (web 聴講者57名+会場参加者10名)

講演概要

講演内容（項目）は、以下の通りであった。

- I. 原子力防災の目的と防護措置
- II. 福島第一原子力発電所事故の教訓と原子力防災の課題・問題点
- III. 福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた原子力防災対策の見直し
- IV. 緊急事態における防護措置の流れ～タイムラインによる防護措置の判断と実施～
- V. 複合災害への対応について
- VI. 原子力防災体制の充実強化のための具体的な取り組み～伊方地域の事例～
- VII. 各地域の緊急時対応のとりまとめ状況と課題
- VIII. まとめ

本講演のまとめとして、講師から以下の話をいただいた。

- 原子力防災対策の継続的な見直しに当たっては、1F事故の教訓を踏まえ、それを紐解いて、これで十分かどうか問い合わせ続けることが大事である。
- 原子力ゼロリスクは非科学的であるため、第5層である防災計画・避難計画を、複合災害を前提として、自治体任せにすることなく、国が積極的に関与して、事業者も含めた関係者の協力の下で、作成することが大事である。
- 原子力防災には、終わりや完璧ではなく、常に、問い合わせ姿勢が大事である。
- また、自然災害の教訓もたくさんあるので、原子力災害への対策に反映することも非常に大切である。これは、長い継続的な対策であるため、皆様と一緒に継続的に改善していきたい。